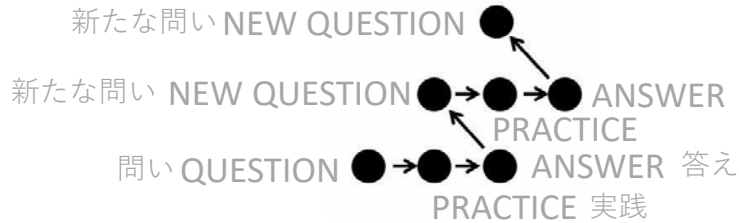




上越市地球環境学校

The School of Global Environmental Conservation 2021

NAKANOMATA VILLAGE 中ノ俣学習施設



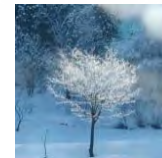
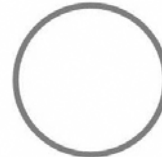
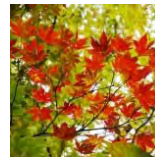
均衡
BALANCE



円環
CIRCLE

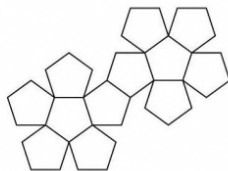
SPIRAL

螺旋 暮らす人々



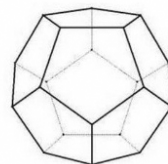
多面体 民俗文化

POLYHEDRON



AUTHENTICITY

真正性 継続生存の規範



上越市地球環境学校

〒949-1742 新潟県上越市中ノ俣4652-2 TEL/FAX 025-541-2310

■施設紹介

上越市地球環境学校は、平成11年に閉校した上越市立中ノ俣小・中学校の空き校舎を利用して開校しました。中ノ俣集落にある多様な自然環境や、そこに暮らす人々の「自然と共に生きる知恵や心」に触れる体験プログラムを提供しています。小・中学校、高校、大学での学習の一環としてはもちろん、子ども会や家族、サークル活動など、里山体験や自然体験を通しての環境学習をご希望の方なら、どなたでもご利用いただける施設です。

■開館期間：4月1日～12月28日

※冬季は不定期開館し、プログラム利用を受け入れます。

■休館日：祝日の翌日・月曜日（祝日の場合は営業）

■利用人数：150名程度まで

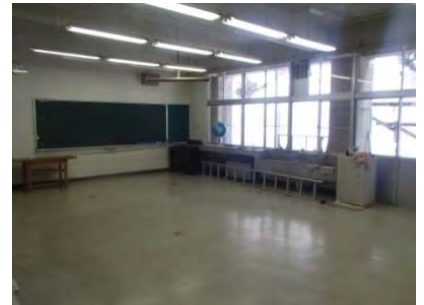
■宿泊人数：45名程度まで（寝袋無料貸出）

■利用料金：材料費等実費（指導料・道具貸出料無料）



■学習室

活動の拠点となるスペースです。活動前後の説明やふりかえり活動、少人数でのものづくり活動を行います。活動に使う道具も様々に取り揃えており、無料で貸し出すことができます。ペレットストーブがあって暖をとることができ、屋外でぬれた場合でも安心です。宿泊活動の場合はこのスペースに畳を敷き詰め、就寝スペースとします。



■体育館

広いスペースを確保できるため、ものづくり活動や100名規模の大人数の活動の際の拠点となるほか、雨天時の活動の際も便利です。わら細工や千歯こき、唐箕、手あおりポンプなどの民具や、ミニチュアの茅葺き古民家なども常設展示しています。

（※展示物があるため、ボールを使った活動はご遠慮ください。）



■食堂・調理室

屋内での調理体験を行うスペースです。鍋や包丁、炊飯器、ガスコンロなどの調理器具やおわん、はしなどの食器はひと通りそろっており、滅菌処理を施したうえで無料で貸し出しています。冷蔵庫・冷凍庫もお使いいただけますので、宿泊活動の際も便利です。



■野外炊事場

屋外でかまどを使って火を焚くことができるスペースです。食堂・調理室と学習室に隣接しているため、室内で食材の下ごしらえをし、屋外で火を焚いて調理する、屋外で火を使って木材を加工したあと室内で仕上げを行うなど、調理体験や火を使う工作活動を行う際に便利です。屋根があり、雨天時でも活動が可能です。



■中ノ俣というところ

■中ノ俣(なかのまた)集落は、新潟県上越市の西側に連なる西頸城(にしくびぎ)山地の入り口に位置し、桑取川(くわどりがわ)水系の中ノ俣川を中心とした谷あいの集落です。上杉謙信の時代には春日山城の食糧基地として、また道が交わる要衝として大変重要な場所でした。しかし海沿いの道が発達するのに伴い、中ノ俣の往来が減少すると同時に、集落の過疎高齢化が進行しました。

人々は古くから、冬は炭焼きに精を出し、深い雪が解け始めると、一斉に山や田んぼに出かけ狩猟採集や農業を行うという暮らしを続けてきました。この地域は土砂災害や雪崩が多い地域でもありますが、地滑りのあとの肥沃な土地に棚田を拓き、丁寧に管理することで大規模な地滑りを防いできました。自然の厳しさと向き合いながら、その恵みを最大限に生かす知恵と技術が千年以上続き、今も受け継がれている地域です。



■かみえちご山里ファン倶楽部とは

■かみえちご山里ファン倶楽部は、新潟県上越市の西部「桑取谷」と呼ばれる中山間地域を活動拠点とし、地域住民が発起人となり平成13年に発足しました。山里の自然、景観、文化、地域産業を「守る・深める・創造する」ことで豊かな里山・里海の地域文化を育むことを目的に活動を行っています。具体的には地球環境学校をはじめとした公的施設の管理運営のほか、地域行事の支援、地域資源調査・民俗の記録、地域資源イベント、生活技術セミナーをはじめ、冬場の買い物代行や、昼食サービスなどの予防福祉事業も展開し、その活動は多岐に渡ります。



■環境教育から「生存共学」へ

■里山にある昔ながらの暮らしは、日本で千年以上続いてきた、持続可能な循環型の暮らしです。この暮らしは、自然に寄り添う心や、地域にあるものを最大限に活用する知恵や技術によって支えられています。これらの知恵・技術・心のことを私たちは「生存技能」と呼びます。近代化の中で、この暮らしや生存技能は消滅の危機にある一方、現代の生活様式は環境問題と呼ばれる様々な問題を引き起こしています。これら問題を解決し、これから先千年続けてゆくことのできる新たな生活様式を確立するための鍵は、この生存技能にあると考えています。ただ、生存技能をそのままの形で真似するのではなく、昔の暮らしの良いところと今の暮らしの良いところを学び合い、現代の生活様式に照らして取り入れていく必要があります。私たち上越市地球環境学校は中ノ俣が、昔ながらの生存技能を学ぶ「生存教育」の場となるとともに、その生存技能を現代の生活様式に取り入れていく術を共に学び合う「生存共学」の場となることを目指しています。

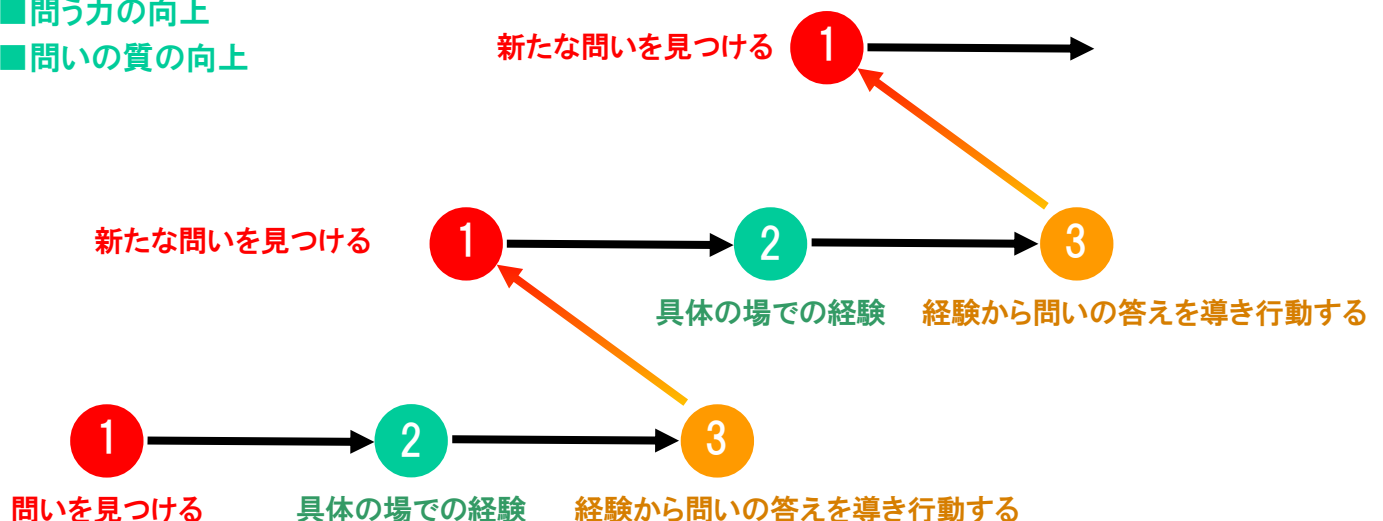


■「問う力」の向上

■私たちは、「問う力」を向上させることで、自ら考え、賢い選択をし、行動することのできる人を育成することを目指しています。「問う力」とは、五感を使った体験により向上すると考えています。ある程度の経験や知識がなければ、その物事について疑問に思うこともありません。また紙の上で学んだだけの知識より、体験に裏打ちされた知識のほうが、より深い理解が得られると考えます。同時に、体験によって生まれた疑問は、新たな体験によって解決することができます。体験は、「自分で問いを作る力」を向上させるとともに、「問いに対する答えを見つける力」を養うことでもあるのです。私たちは、「問い」やその「問い」に対する答えをこちらから与えるのではなく、自ら「問い」を作り出し、その「問い」に対する答えを自ら見つけ出す力を養うため、様々なアクティビティを通して「体験の場」を提供します。

■問う力の向上

■問いの質の向上



■プログラムの流れ

提供するプログラムは、ご要望をお聞きしながらオーダーメイドしています。「問いを見つけ」、「具体の場で経験し」、「経験から答えを導く」という3つの流れに沿って、様々なアクティビティを組み合わせることでプログラムを組み立てています。

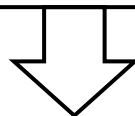
1 問いを見つける

フィールドでの活動に出かける前に、自ら活動の中で問いを見つけるための投げかけを行います。例えば川の活動であれば家の近くの川の様子を思い浮かべてもらうなど、日常生活で身近にあるものを想起させることで、自らの暮らしと比較しながら活動を行うことができるようきっかけを与えます。



2 具体の場で経験する

自然に触れたり、地域に住む人と関わったりするなかで、問いに対する答えや新たな疑問を導き出すため、様々な発見をできるように促します。活動の際は五感を使って感じることに主眼を置き、学習の方針に沿うことはもちろん、個々人の興味関心に合わせて様々な発見を導き出します。



3 経験から答えを導き行動する

ふりかえり活動を行い、体験から得られた発見を子どもたちから引き出し、共有することで、自ら作った問いに対する答えを自ら導き出すことができるようサポートします。導き出した答えや新たな問いを持ち帰り、普段の暮らしを省みるとともに、日常生活の中で具体的な行動をとれるよう促します。



※フィールドでの活動時間を長く確保するため、小中高等学校の学習の一環で利用される場合は、スタッフが各学校に向向いて事前・事後学習を行う「出前講座」をお勧めしています。詳しくはお問い合わせください。

■生存技能紹介

中ノ俣に多くある生存技能を一週間に分類して紹介し、わかりやすく、楽しく学習できるようにしています。

| | | | |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| <h1>日と月</h1> | <p>「日(太陽)と月」は、大きな構造としての自然を表します。大まかな気候や、風・光・熱・雨・雪などのことであり、他の技能が存在する基盤を表しています。</p> |  |  |
| <h1>火</h1> | <p>「火」は食事を作ったり、お風呂を沸かしたりなど、生活に欠かすことのできないものです。</p> <ul style="list-style-type: none">●火をつける●火を作る●火を使う |  |  |
| <h1>水</h1> | <p>「水」は生きるために欠かせないものです。中ノ俣では、中ノ俣川を中心に集落が形成されています。</p> <ul style="list-style-type: none">●水を引く●水を使う●水を流す・捨てる |  |  |
| <h1>木</h1> | <p>「木」はここでは木材のことを言います。木は燃料や道具になる、再生可能な資源です。</p> <ul style="list-style-type: none">●木を育てる●木を切る●木を使う |  |  |
| <h1>金</h1> | <p>「金」は刃物や鍋などの道具のことを表します。これがあることで、他の「火」「水」を効率よく扱えます。</p> <ul style="list-style-type: none">●道具を作る●道具を使う●道具の手入れ |  |  |
| <h1>土</h1> | <p>「土」は土地そのものや農業、植物のことを表します。これを活かして豊かな暮らしが成り立っています。</p> <ul style="list-style-type: none">●土を見極める●土を作る●土を使う |  |  |

■技能の達人紹介

中ノ俣在住の「達人」のみなさんです。みなさんの活動の際に、様々な技能や知恵を教えてください。

木挽きの達人



大工の達人



茅葺きの達人



野菜作りの達人



郷土料理の達人



牛飼いの達人



わら細工の達人



炭焼きの達人



唄・踊りの達人



■スタッフ紹介

みなさんの活動をコーディネートします。全員が上級救命講習と安全管理講習の認定を受けています。



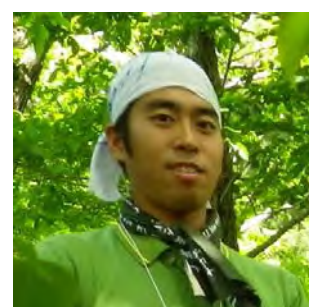
松川菜々子(ななっぺ)



石倉泰考(やっちゃん)



後藤正弘(ごんちゃん)



神崎淑(ザッキー)

■フィールド紹介

活動のフィールドは「中ノ俣集落まるごと」。上越市高田の街中からわずか15kmの場所にありながら、山中の峠を4つも越えて行くこの集落には、森、川などの豊かな自然はもちろん、棚田や茅葺きの家、炭焼き小屋、牛舎など、今では懐かしい、人々の営みの風景が広がっています。

棚田

美しい景観を残す棚田での稲作は、中ノ俣の暮らしの中心であり、生存のための知恵と技術が詰まっています。棚田はお米を生産するほかにも土砂崩れの防止など様々な機能があります。生物多様性を育むのもその一つで、今では少なくなってしまったドジョウやゲンゴロウ、コオイムシ、オケラなどの生き物に出会えることもあります。また副産物であるワラは、ワラ細工として衣類などを作ったり、畑作や畜産に活用されてきました。



川

集落を貫く中ノ俣川は、生活用水としての利用はもちろん、農業用水や融雪用としても利用されるなど、人々の生活を支えてきた川です。川の中にはハヤやカジカ、シマドジョウなどの魚や、ヘビトンボ、カワゲラ、カジカなどの水生昆虫など、きれいな川に住む水生昆虫を多く見ることができます。主に泥岩からなる地形で、水源のすぐ近くの上流部から集落近くの中流部まで、また浅瀬から深みまで様々な環境があります。



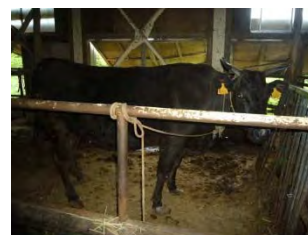
森

中ノ俣には大きく分けて雑木林と杉林、竹林の3種類の森があります。森は、薪炭材や建築材、日常生活に必要な道具を作る材の生産だけでなく、きのこやタケノコ、山菜などの食物の生産の場でもあります。また哺乳類をはじめとした多様な生物の生息場所でもあり、また雨水や雪解け水を貯める水源涵養能力もあります。木材需要の少なくなった現在では荒廃している森もあり、森林問題の現状について学ぶこともできます。



集落

茅葺きの古民家、鶏小屋、井戸などのほか、雪を解かすための池などの雪国ならではの生活の工夫も見られます。四季折々の営みの風景があり、干し物ひとつとっても春はゼンマイ、夏はモグサ、秋は小豆、冬は大根などと、さまざまに風景が移り変わります。また禅寺の太中院(たいちゅういん)や毎年神輿渡御と神楽奉納が行われる気比(けひ)神社などの寺社もあり、千年以上の年月をかけて育まれてきた独自の文化に触れることができます。



牛舎



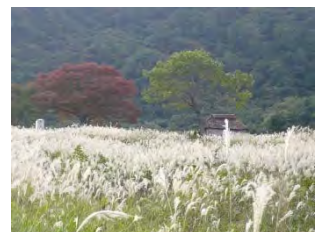
気比(けひ)神社

その他

多いときには300頭以上の牛が飼われていた中ノ俣牧場跡地では、夏の星空や秋の紅葉、ススキ野原など四季折々の風景が楽しめます。現在でも集落に牛舎があり、肉牛や繁殖牛が飼われています。また牧場跡地までの道中には落合の滝と呼ばれる落差50mの荘厳な滝があります。中ノ俣は良質な白炭の産地としても有名で、現在でも炭焼き窯が複数残っており、自給的に炭焼きを続けているところもあります。



炭焼き小屋



中ノ俣牧場跡地

■人気アクティビティ紹介

体験(遊び・探検)

■森の手入れ・遊び場づくり

のこぎりや手鎌を使った森の手入れ体験をします。手入れで出た材を使って秘密基地やブランコなどの遊具を作ったり、はしなどの道具を作ったりすることで、楽しみながら森の恵みを利用する知恵を学びます。



■川遊び

中ノ俣川にて水遊びをしたりや生き物を捕まえたりします。中ノ俣の生活や文化を支えてきた川の現在の様子を知り、水環境や水循環について学びます。



■棚田作業体験

田植えや稲刈りはもちろん、畦塗りや田起こし、草取り、ハサ掛けまで、棚田での稲作に必要な様々な作業を体験することができます。年間を通して活動すると、四季の風景の移り変わりを感じることもできます。



■ドラム缶風呂

薪を使って風呂を焚く体験をします。火のつけ方を学ぶとともに、風呂焚きの大変さと充実感を知ることにより、現代の生活がいかに道具に頼っているかを実感します。



観る(調査・観察)

■森・田んぼの生き物観察

昆虫観察や動物の痕跡探しをしながら、生態系とそのバランスについて考えます。また棚田と平地の水田など環境ごとに比較を行い、生物多様性や環境による影響についても考えます。



■川の生き物観察

水質を示す指標生物をはじめ、水辺にすむ生き物を観察します。また水温や濁度、CODなどを調べ、生き物と水環境とのかかわりを学ぶほか、下流部との比較を行うこともできます。



■里山散策・ウォークラリー

棚田、牛舎、炭焼き小屋、井戸、神社などの里山を探検しながら昔の暮らしに触れ、現代の生活と比較しながら、食と農の問題や文化の均一化が及ぼす影響等について考えます。



■古民家見学

木材やカヤなど、主に地産の材料で建てられた古民家を見学し、築200年以上の古民家のもつ不思議を学びます。囲炉裏で火を焚くこともできます。



つくる(クラフト・調理)

■ネイチャークラフト

端材や森で集めた木の葉、木の実などを使っての創作活動や、森の手入れで出たツルを使ったかごやリース作りを行います。創造力を育むとともに、自然の恵みを利用する知恵を学びます。



■郷土料理体験

山菜料理やそば打ちなど、山間地ならではの料理体験を行います。山の恵みとそれを十分に生かした食の文化を味わいながら、調理や保存の知恵を学びます。



■竹で作ろう

竹でご飯を炊いたり、バウムクーヘンを作ったりといった調理体験や、竹笛、竹鉄砲などの工作を行います。活動を通して、竹の利用方法を学ぶとともに、放置された竹林の問題点にも触れます。



■わら細工

基本である縄ないの練習を始め、なべしきや草履などを作ります。日本人の生活に密着した貴重な文化を知り、稲作を中心とした循環型社会について学びを深めます。



気軽に体験プログラム

基本的には予約制ですが、以下のようなプログラムはスタッフが対応可能な範囲で、予約なしでも体験できます。また館内には民具等の展示があり、見学は自由です。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

■木工作

端材や木の実などを使った自由工作です。木工作に必要な道具は貸し出します。

材料費：300円～



■葉っぱスタンプ

葉っぱをスタンプ代わりにして、うちわや手ぬぐい、ランチョンマットなどに様々な模様をつけます。

材料費：200円～



■里山散策

セルフガイドマップを持って散策に出かけます。集落内各所に案内看板があります。

(地域の方が暮らしていますので、節度を持った行動をお願いします。)



■一日の過ごししかた(例)

①総合学習(小学校4年生・テーマ:水)

水をテーマに、実験を通して森の水源涵養能力を学んだり、川遊びを通して森の育む水の豊かさを実感します。

| | | |
|-------|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 09:30 | 環境学校到着 | |
| 10:00 | 森遊び 緑のダム調査 |  |
| 12:00 | 昼食(持参) | |
| 13:00 | 川遊び 川の生き物調査 |  |
| 15:00 | ふりかえり・環境学校出発 | |

②家族・PTA活動・子供会活動での利用

里山の自然を楽しむことがメインの構成です。宿泊活動・日帰り活動どちらでもご利用になれます。

| | | |
|-------|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 12:00 | 環境学校到着・昼食 | |
| 14:00 | 川遊び | |
| 16:30 | 夕食・入浴※ | |
| 19:30 | ナイトハイク |  |
| 21:00 | 就寝※ | |
| 07:00 | 起床・朝食準備・朝食 | |
| 09:30 | 竹でバウムクーヘン 竹でご飯 |  |
| 12:00 | 昼食 | |
| 13:00 | 葉っぱスタンプ |  |
| 14:30 | 環境学校出発 | |


③宿泊体験活動(小学校5年生)

5年生社会科で学ぶ稲作に絡めて、棚田作業やワラの利用などの、棚田を中心とした中ノ俣の暮らしに触れます。

| | | |
|-------|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 09:30 | 環境学校到着 | |
| 10:00 | 棚田作業体験 |  |
| 12:00 | 昼食(持参) | |
| 13:00 | ドラム缶風呂 郷土料理体験 |   |
| 17:30 | 夕食・自由時間 | |
| 19:30 | ナイトハイク | |
| 21:00 | ふりかえり・就寝 | |
| 06:00 | 起床・朝食準備・朝食 | |
| 09:00 | 里山ウォークラリー |  |
| 11:30 | 昼食(仕出し弁当) | |
| 12:30 | 縄ない体験 |  |
| 14:30 | ふりかえり・環境学校出発 | |

③高校生・大学生・一般の方

丸1日かけてわら細工で草履やふかぐつを作るなど、生存技能を本格的に学びます。

| | | |
|-------|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 09:30 | 環境学校到着 | |
| 10:00 | 草履作り |  |
| 15:00 | ふりかえり 環境学校出発 | |

※「霧山荘」や「金左衛門」を有料でご利用いただけます(14P参照)

■ 複数回利用のご案内

より深い学びのため、季節を変えてお越しいただいたり、繰り返し中ノ俣を訪れて体験を重ねることをお勧めしています。一回一回の活動は「問いを見つける」「具体の場で経験する」「経験から答えを見つけ行動する」の流れに沿い、活動ごとに「問う力」と「問いの質」を向上させながらステップアップした活動が可能です。以下はテーマ「森」に沿った複数回利用の例です。

STEP1: 自然に触れる・楽しむ

森でハンモックやブランコなどの遊具を使ったり、木登りをしたり、秘密基地を作ったりして遊ぶことで、森に親しみます。同時に動物の痕跡探しをしたり、簡単な実験を行ったりすることで、森の持つ生物多様性保全や水源涵養能力などの様々な多面的機能についても楽しく理解します。また、雑木林、杉林、竹林など様々な森を訪れることで、それぞれの環境の違いなどについても学びます。

- 森遊び
- 森林散策
- ネイチャーゲーム
- 緑のダム調査
- 秘密基地づくり



STEP2: 暮らしに触れる・問題点を見つける

森の恵みを使った料理体験をしたり、中ノ俣の散策を通して木材でできているものを見つけたり、実際に森を手入れした材料を使ってはしなどの簡単な道具を作ったりすることで、中ノ俣の暮らしと森との密接な関係に気がきます。また、手入れの行き届いた森とそうでない森を比較したり、放棄された森が引き起こした土砂崩れの現場を見学したりすることを通して、現在の森が抱える問題点にも気がきます。

- 郷土料理体験
- 里山ウォークラリー
- 古民家見学
- 木工
- 土砂崩れ現場見学
- 森の手入れ



STEP3: 未来に向けて行動する

体験を通して感じた森の良さは何か、森が抱える問題点は何かを話し合い、整理することで、自分たちはどのような森を作っていきたいのかを考えます。そして自分たちの暮らしと中ノ俣の暮らしを比較しながら、思い描く理想の森を作るためにはどのようにしたら良いのか、自らの暮らしの中でできることを考え、実際に行動に移します。

- 達人にインタビュー
- お茶飲み
- 里山ワークショップ



■ 周辺施設案内

中ノ俣集落内には環境学校以外にも宿泊施設や交流古民家などの施設があり、様々な楽しみ方があります。これらの施設をプログラムで活用することも可能です。また車で15分ほどの横畑集落にも様々な施設があります。

■ 宿泊施設「霧山荘」(きりやまそう)

旧中ノ俣小学校の教員宿舎を改装した宿泊施設。食事の提供は行っておりませんので、食材をお持ちいただき、自炊でのご利用をお願いしています。



- 開館期間: 4月下旬～11月30日
- 設備: キッチン(食器・調理器具あり)、リビング、ユニットバス(2基)、トイレ、和室(8畳)4部屋
- 宿泊料: 素泊まり1泊1人3,000円(要予約)
- 定員: 19名
- お問い合わせ: かみえちご山里ファン倶楽部
(025-541-2310)

■ 古民家「金左衛門」(きんざえもん)

古民家を改修し、地域内外の交流の場として利用しています。室内には囲炉裏があり、窓からは絶景の棚田を眺めることができます。

- 開館期間: 4月下旬～11月30日
- 設備: キッチン(食器・調理器具あり)、ユニットバス、トイレ、居間(囲炉裏あり)、座敷
- 利用料: 1日2,000円
- 定員: 40名
- お問い合わせ: かみえちご山里ファン倶楽部
(025-541-2310)



■ 中ノ俣市民ギャラリー

米蔵を改装したギャラリー。写真家佐藤秀明氏の中ノ俣風景・民俗写真の常設展示のほか、季節ごとに企画展を行っています。



- 開館期間: 4月下旬～11月30日
- 設備: 1F: 常設展示 2F: 企画展示
- 見学料: 無料
(写真展の希望はお問い合わせください。ただし中ノ俣に関連した写真展に限定します。)
- お問い合わせ: はだしの会事務局(石倉)
(025-541-2062)

横畑集落 施設案内 (中ノ俣集落から横畑集落へは車で約15分です)

■上越市くわどり市民の森

水源森林機能の啓発拠点としての役割を担う水源森林公園です。散策や木工工作体験ができるほか、管理棟内には休憩スペースや自然情報コーナー等があります。

- 開館期間：4月24日～11月15日
- 時間：9:00～17:00
- 休館日：月曜日・祝祭日の翌日
- 問合せ：090-5775-1208



■平左衛門カフェ

築170年の古民家。静かな雰囲気の中で、地産食材を使用した食事や厳選豆の挽きたて珈琲を味わえるカフェです

- 営業日：金・土・日・祝祭日
(4月24日～11月末)
- 時間：11:00～18:00
- 問合せ：025-541-2602



■桑取生活デザイン参考館

世界各国の優れた生活デザインの品々を展示しているミュージアムです。

- 営業日：金・土・日・祝祭日
(4月24日～11月末)
- 時間：10:00～16:00
- 入館料：300円
- 問合せ：025-541-2602



■交通アクセス



上越高田IC下車、大貫交差点より車で30分ほど

■環境学校までは道幅が狭くカーブも多いため、十分に注意してお越しください。正善寺ダムからの道は、バスなどの大型車は通行できません。初めて来られる方は大貫交差点からの道をお勧めします。

■大貫交差点及び正善寺ダム手前から携帯電話が不通となります(中ノ俣集落内ではauとdocomoが通じます)。緊急の場合は、道中の有線電話で環境学校62-2621までご連絡ください。

■利用の手引き

プログラムは予約制です。施設利用を希望の際には、あらかじめ電話、メール、FAXにて日程を調整のうえ、ご予約下さい。プログラム内容並びに安全面から、可能な限り現場での下見と打ち合わせをお勧めします。

①問い合わせ

- 地球環境学校へ連絡
- 利用可能な日程を確認
- プログラム内容の相談



②申込み・予約

- 日程の予約・交通機関の手配
(上越市内の小・中学校、幼稚園はバス代の補助があります)
- プログラム内容や準備物について打ち合わせ
- 利用申請書の提出



③利用承認

- 利用計画書の受取→時間・内容・持ち物・実費等について確認
- 利用承認書の受取
- 保険の確認



④利用当日

- 承認書の持参
- 実費支払(現金支払、振込払が選べます)
- アンケート記入

上越市地球環境学校

〒949-1742 新潟県上越市大字中ノ俣4652-2

TEL・FAX 025-541-2310

E-mail kankyogakkou@gmail.com

URL <http://www.city.joetsu.niigata.jp/soshiki/kankyo/shisetsu-gakkou.html>